

名古屋大学陸上部OB会月報(第18号)

2012.3.26 発行

目次

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 1. 関東支部会の活動について | 外村 仁 (S35経) 関東支部長 |
| 2. 名大陸上部有志忘年会兼勉強会の結果報告 | 佐々木賢治 (S48理) |
| 3. 走高跳・今井美希選手の競争戦略ストーリー考察 | 國近 進 (S44工) |

1. 関東支部会の活動について

関東支部長 外村 仁 (S35経)

私は何事も賑やかなのが好きだ。小人数でひっそりやっているより大勢のほうが楽しいし勢いもつくものだ。陸上のOB/OG会も同じだと思う。したがって、関東支部会は何をするにしても先ず人数を集めることを主眼にしている。今年も2月に支部総会を開催したが、50人近い出席者を得て盛会であった。40名ほどの支部会員のほか松本会長、名古屋から副会長の大澤さん、國枝部長など数名の参加をいただいた。支部会員の最長老は横浜にお住まいで昭和28年医学部卒業の森先輩であった。

大澤さんのご尽力で出席が実現したのだが、森さんにお目にかかるのは本当に久しぶりで、初めてお会いする会員も多かったと思う。大変お元気で年齢を感じられず、後期高齢者を目前にした私など大いに勇気を頂いた次第である。



関東支部会にて

関東の支部会に出席者が多いのは10名の世話人グループがうまく機能しているからだ。昭和39年卒の奥村君を筆頭に、昭和世代が6名、平成世代が4名で最若手が平成17年の高橋さんという布陣。これらの世話人が自分の年次に近い会員を分担してカバーする体制になっている。支部長の名を戴く私だが実際の仕事は彼らの活躍に頼りきりで感謝に堪えない。

OB会、同窓会のような組織は世の中に数多く存在するが、どうかすると一定の世代に活動が偏り、会員の高齢化とともに後が続かず衰退に向かう例も多いと聞く。この弊を避けるためには、常に若い世代の参加を図って組織の老齢化を防ぐ努力が必要だ。年次別世話人制度はこのために誠に有効な手段であるが、若い人を呼び込むためには色々な工夫も必要となってくる。現在吾が世話人グループが課題としているのは

- (1) 参加料(会費)をなるべく押さえて若い人たちに参加しやすくすること。
 - (2) 関東エリア在住のOB/OGの所在をできるだけ正確に把握して効率の良い連絡を行うこと。
- ・・・である。

(1)は嬉しい悩みで主に会場の選択である。現在利用している学士会館は50人くらいが着席スペースでは限度であり、さらに参加者が増えた場合OB会にふさわしい品格があつてコストがあまり

高くない場所探しに一苦労しそうだ。(2)は古くて新しい問題であろうが会員名簿が必ずしもアップデートされておらず、名簿記載の番号に電話しても空振りに終わることがしばしばあるようだ。特に若い世代ほど住所や電話番号の変更が多く所在の把握が難しい。この辺はOB会本部の協力も得て改善していきたい。また世話人にも更に若い世代の人を追加することも必要だろう。

先般の支部総会で青山さん(昭34経)が“現役で陸上を楽しめるのはたった4年だがOBになって50年以上楽しめる。”と乾杯の挨拶をした。名言である。陸上競技部のOB/OG諸君、OB会の行事に積極的に参加して長い間陸上を楽しもうではありませんか。



森 健躬さん



森 健躬さん

松本会長

2. 名大陸上部有志忘年会兼勉強会の結果報告

佐々木賢治 (S48 理)

昭和48年卒の佐々木です。昨年12月29日夕刻、既に40年近く続いている恒例の忘年会兼勉強会を名駅前S I Aにて開催しました。この会の発端については、今は亡き大土井さんを囲んで始まったとか、大土井さんを偲んで集りが始まったとか諸説あり、各種歴史的伝統同様に開始時期も含め定かではありません。しかし、10年ほど前から世代間を越え各参加者、特に体型、知性共にスマート(?)な若い方の報告を聞く肩の凝らない懇親会兼学習会となっています。

当日参加予定の方々の内、数名時間的に参加が適わなかった方々もありましたが、お蔭様で10名の参加を得て盛大に開催しました。出席者座席順敬称略(平成8年卒古川 淳、昭和46年卒水谷明文、小林和正、星野公平、西谷 正、戸田陽二郎、瀬古俊幸、昭和49年卒河合 修、昭和44年卒國近 進、昭和48年卒佐々木賢治)。

最若年参加者は古川君で、これまでの社会人となって以降の経験、特に京セラ時代の話は大変参考になりました。

最近、坂田博士生誕百周年で『坂田昌一の生涯—科学と平和の創造—』(鳥影社、p.477)を出版された西谷さんにもお話を戴きました。その巻頭には2008年度ノーベル物理学賞受賞の益川敏英博士から“本書は、実に丹念に資料を掘り起こして記述されている。一読に値する。”との序

文が掲載され、大変すばらしい著書です。会場でも4冊販売が出来ました。その他、桑名市長問題で活躍中の星野さん、広報部の國近さん初め活発な議論となり大変楽しい会となりました。

これまで参加戴いていた、昭和29年卒の水谷伸治郎、昭和30年卒の高田和之両大先輩の出席が無かった事、又昭和44年卒の伊藤 晃さんは別件で一度顔を出されましたが病氣療養中で会には参加されず一抹の寂しさでした。

なお、本年末も開催を予定していますので老若を問わず、是非参加下さい。

2012年12月29日午後6-8時開催予定を予定しております。



宴たけなわの参加者



著作について語る西谷 正氏

3. 走高跳・今井美希選手の競争戦略ストーリー考察

國近 進 (S44工)

2011/11/23、名古屋大学 ES 総合館 1 階大ホールにて開催された名古屋大学陸上部 OB 会・愛知学院大学陸上部 OB 会共催の第 16 回 T&F スポーツ講演会で走高跳「日本記録保持者」今井美希さんの講演を聞く機会がありました。

題は『夢が叶うまで』。2001 年 9 月 15 日、今井さんは横浜にて 14 年振りに日本記録を更新 (1m96) しました。講演は、そこに至る懸命な練習と努力、様々な創意工夫、練習記録カード実物の紹介周りの人々との感情の交錯、さらにライバルとの人間関係に至るまで、現役学生に対する具体的なアドバイスを交えながら、競技生活や記録向上への挑戦プロセスを物語のように熱く語っていただきました。私も現役生と一緒に日本記録保持者の練習振りを直接に聞き、感銘を受けました。(なお講演内容は國枝部長が月報 17 号に紹介されています。)



今井選手は 1995~2004 年までの間、日本選手権 6 回優勝、2000 年のシドニーオリンピック出場という素晴らしい競技経歴を残されています。その日本新記録は 10 年経過した現在も破られていません。参考：中学 2 年歴代 5 位 (1m70)、高校 3 年歴代 5 位 (1m81)。

今回は、私自身まったくの素人ですが、日本新記録というハイレベルな目標を達成されたお話

をもとに、そのプロセスに「競争戦略ストーリー」の考え方を適用して分析したいと思いました。これは、経済活動の競争戦略をSP(戦略的ポジショニング Strategic Positioning)とOC(組織能力(Organizational Capability)) (注①)の組合せで論理化したものです。この考え方で、今井選手の走高跳日本新記録樹立に至る“競争戦略”成功要因の分析を試みてみました。

このSP&OC戦略論によれば、競争相手よりも優れた成績を持続的に達成する競争戦略ストーリーには、競争相手が明らかに不合理だと考え模倣を避けるような要素戦略(これを「キラーパス」と呼ぶ)を、全体として合理的で一貫性のある戦略の中に組込むことで、独自の強みを獲得するという発想がある。ライバルも模倣するような合理的と考えられる構成戦略群の中で、このキラーパスが中核になって互いの構成要素戦略との交互作用がきわめて有効に働くことで、持続的な競争優位の源泉となる、としています。

まず「走高跳」という競技の特質を以下のように考えました。

| |
|--|
| <p><u>ハード面</u>：短い助走、踏切り、跳び越えるまで一瞬で終わる。ジャンプし垂直に跳びあがらせる強い筋力、バー上で手足の先端まで素早く、柔軟にコントロールする神経系とその伝達スピード。(筋肉・神経系)</p> <p><u>ソフト面</u>：高く跳びたいという動機付けを繰り返し行うことで、脳細胞に理想イメージとして記憶された身体運動プロセス。(飛びたいイメージのソフトウェア系)</p> <p>⇒身体と運動ソフトの両面で短時間に同時進行する高度の集中と制御の陸上競技</p> |
|--|

注①：楠木 建「ストーリーとしての競争戦略」東洋経済新聞社 2010年5月

そこで、走高跳に対して、今井選手の「SPの戦略論」と「OCの戦略論」の構成要素を、講演内容から次のように考えてみました。

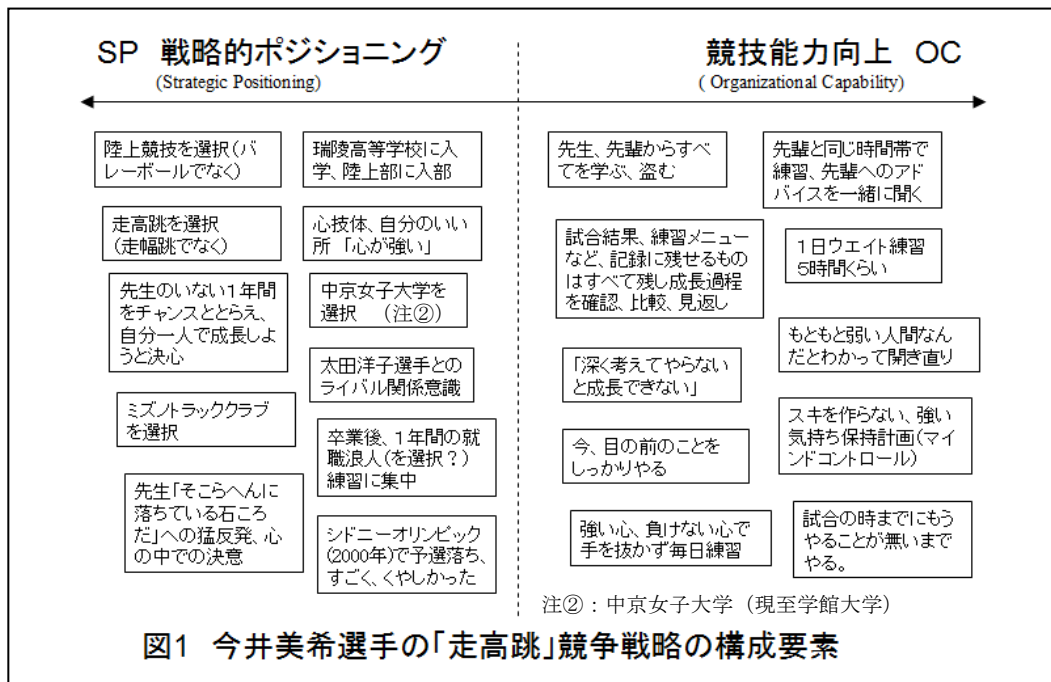


図1 今井美希選手の「走高跳」競争戦略の構成要素

今井選手の記録に近づきたいと願い、これらを模倣することから始めたとする。すべてを模倣することは大変なことである。一体、どれを取り入れ、どれを“不合理”として不採用とするだ

ろうか？ 少なくともキラーパスだけは落とせないが、今井選手の競争戦略の中核となる「キラーパス」は何であろうか？

もし、今井選手を超えたいと願った時は、さらに何か新しいオリジナルな SP と OC を考え出さなければならぬから、さらに日本記録更新は遠のく。

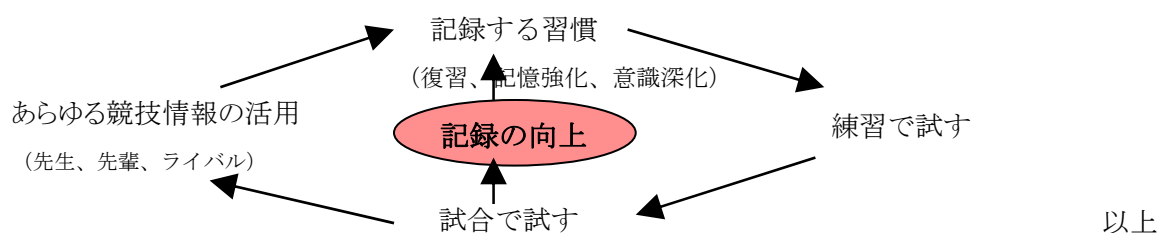
図1を眺めていて気付いたことは、走高跳は、特に気持ちの集中と安定、全身制御のためのプロセスを強く記憶させること、そのため、大胆にして細心という両面の思考スタイルが感じられる。試合度胸と共に常に深く考える習慣が求められる、とも言える。奥の深い競技像が浮かび上がってくるようである。



意識集中と全身制御

講演の最後の方で、ご自身の「練習記録カード」現物を持参し学生に回覧された。これは印象的な出来事でした。いわばノウハウの公開ですから。

まとめ：今井美希選手の競争戦略ストーリー（案）



以上

【2012年度新OBOGを祝う会】のお知らせ

- 日程：2012年5月12日（土）午後18:00開始 会費：7000円
- 会場：メルパルク名古屋 3F 若葉（名古屋市東区葵13-16-16）
- 申込：國近 進宛て、eメール：tps.directions.-@xj.commufo.jp

編集後記

東日本大震災も発生から早や1年、まだまだ復興途上とのニュース、被災地支援の一環として東京、そして愛知でもようやく震災瓦礫受け入れが決まりつつあるようです。そんな中、2月の関東支部総会、3月の総会と、OB会活動の年度末の集まりに参加させていただいた。今回は外村 仁関東支部長にOB会運営のポイントについて特別に寄稿をお願いしたところ、快く引き受けてくださいました。いろいろな課題に対して、考え抜かれた現実的な工夫・配慮がなされていることが強く印象に残りました。また、宿題も頂戴いたしました。

（文責・國近 進）

本月報へのご意見やご投稿、OB会へのご連絡は下記アドレスへ。

nagoyaunivtrack_field@yahoo.co.jp